

第4章 赤坂頭無し遺跡の調査

第1節 遺跡の立地と基本層序

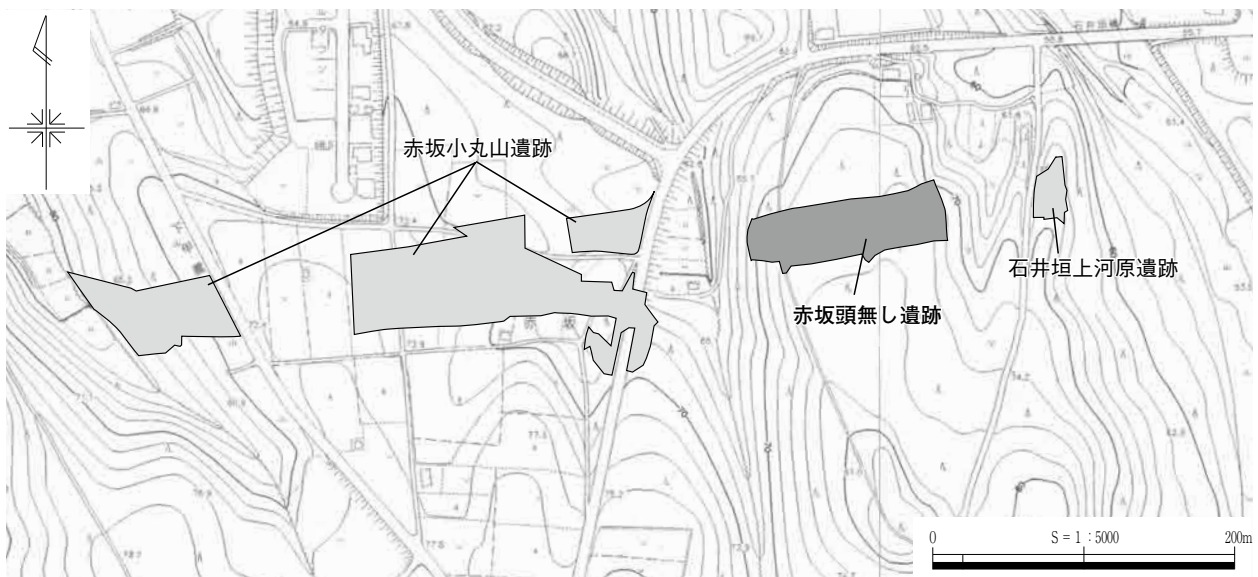
1 遺跡の立地(第76図)

赤坂頭無し遺跡は、甲川中流域の西岸にあり、大山北麓から日本海に向かって緩やかに延びる舌状台地上および海岸線より約2.5km南側の地点に位置する。この付近の台地は、部分的に大きく起伏して丘陵性山地となっており、その中にはいくつかの小谷とそれに挟まれた小丘陵が形成されている。遺跡は甲川西岸より約300m西側、小谷を一つ挟んだ標高73～74mの丘陵頂部と、その西側の緩斜面および東側斜面を範囲とする。調査地内における丘陵頂部と東側斜面最下部との比高差は約9mであり、甲川と丘陵頂部との比高差は約25mとなる。遺跡の東側の小谷を挟んだ丘陵上には石井垣上河原遺跡があり、遺跡の西側の小谷を挟んだ台地上には赤坂小丸山遺跡がある。また、遺跡北側の丘陵先端部には石井垣城跡が、遺跡の南側約1kmの地点には三谷古墳群がある。

2 基本層序(第78・79図)

調査地内の土層の堆積については、調査地北壁と南壁での土層観察のほか、包含層中に土層観察用の畦を残すことによって記録をおこなった。調査地北壁ではC10グリッドのSI2検出面より上層(J-J')、C5・6グリッドのSI7検出面より上層(K-K')で観察し、南壁ではG9グリッドの東端付近(H-H')とF4グリッドの西端付近(I-I')で観察した。また土層観察用畦は、表土除去後、方眼測量用杭の間を結ぶライン上にいくつか設定した。南北方向では、D13杭とF13杭を結ぶライン上(A-A')のほか、G13-H13杭ライン(B-B')、E11-F11杭ライン(C-C')、D10-E10杭ライン(D-D')およびF10-H10杭ライン(E-E')、E7-G7杭ライン(G-G')、東西方向ではE8-E10杭ライン(F-F')にそれぞれ設定した。

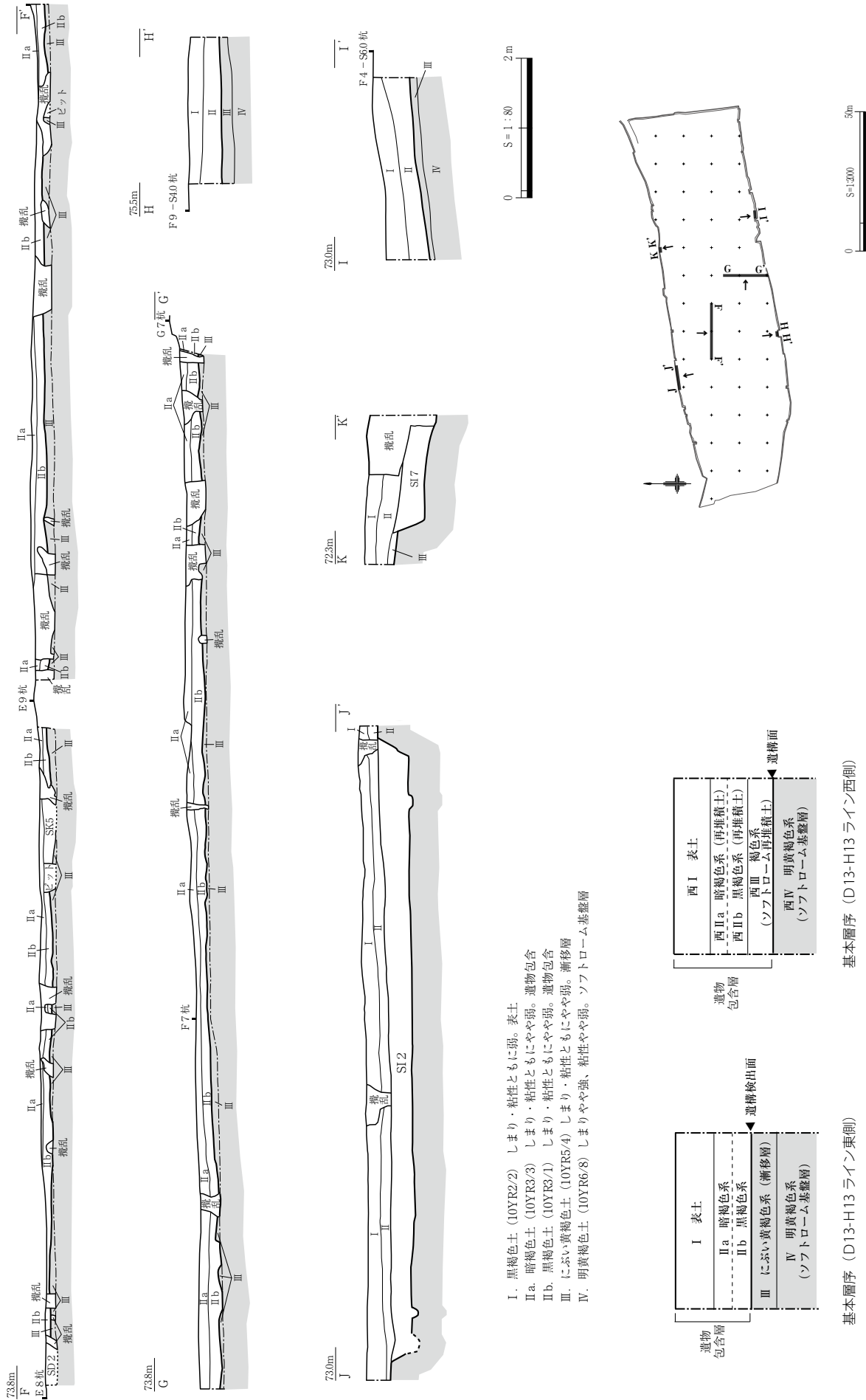
土層の堆積は、丘陵頂部におけるほぼD13-H13杭ラインの東西で異なっており、このラインの東



第76図 調査地周辺の地形



第77図 調査前地形測量図



第79図 調査地内土層断面図(2)

側および丘陵東側斜面では、後述のとおり自然堆積する。それに対して、このラインの西側では、西Ⅱa層から西Ⅲ層までが、攪乱や西側谷地形への流出にともない、西Ⅱa・西Ⅱb層ではクロボクと地山ローム由来土の混濁する暗褐色系または黒褐色系の土が、西Ⅲ層では地山ロームが再堆積する状況がみられる。

基本層序は、D13-H13杭ラインの東側から東側斜面にかけての範囲ではⅠ～Ⅳ層に分かれる。表土であるⅠ層下は、クロボクの自然堆積である黒褐色土(Ⅱ層)が、丘陵頂部で約30cm程度の厚さで堆積しており、その下層では漸移層(Ⅲ層)、ソフトローム基盤層(Ⅳ層)となっている。Ⅱ層は、暗褐色系のⅡa層と黒褐色系のⅡb層に分かれるが、Ⅱa層はⅡ層上半が表土化したもので、Ⅱb層と土壌の質そのものに差はみられない。Ⅱa層とⅡb層は、遺物包含層となっており、縄文時代～古代にかけての遺物を含んでいた。古墳時代の遺物を多く含んでいたが、遺構埋土や攪乱に伴うと考えられ、包含層遺物と厳密に判別することができなかった。そのため、以下本報告では、Ⅱa・b層出土遺物をすべて包含層遺物として扱う。

第2節 調査成果の概要(第80図、表13、PL.79～81)

赤坂頭無し遺跡では、古墳時代を中心として、縄文時代から古代以降にかけての遺構と遺物を確認した。確認した遺構検出面は1面であった。遺構はⅡ層上面から掘り込まれていたと考えるが、クロボクの堆積のため、この面での検出は困難であり、ほとんどの遺構はⅢ層上面またはⅣ層上面において検出できた。

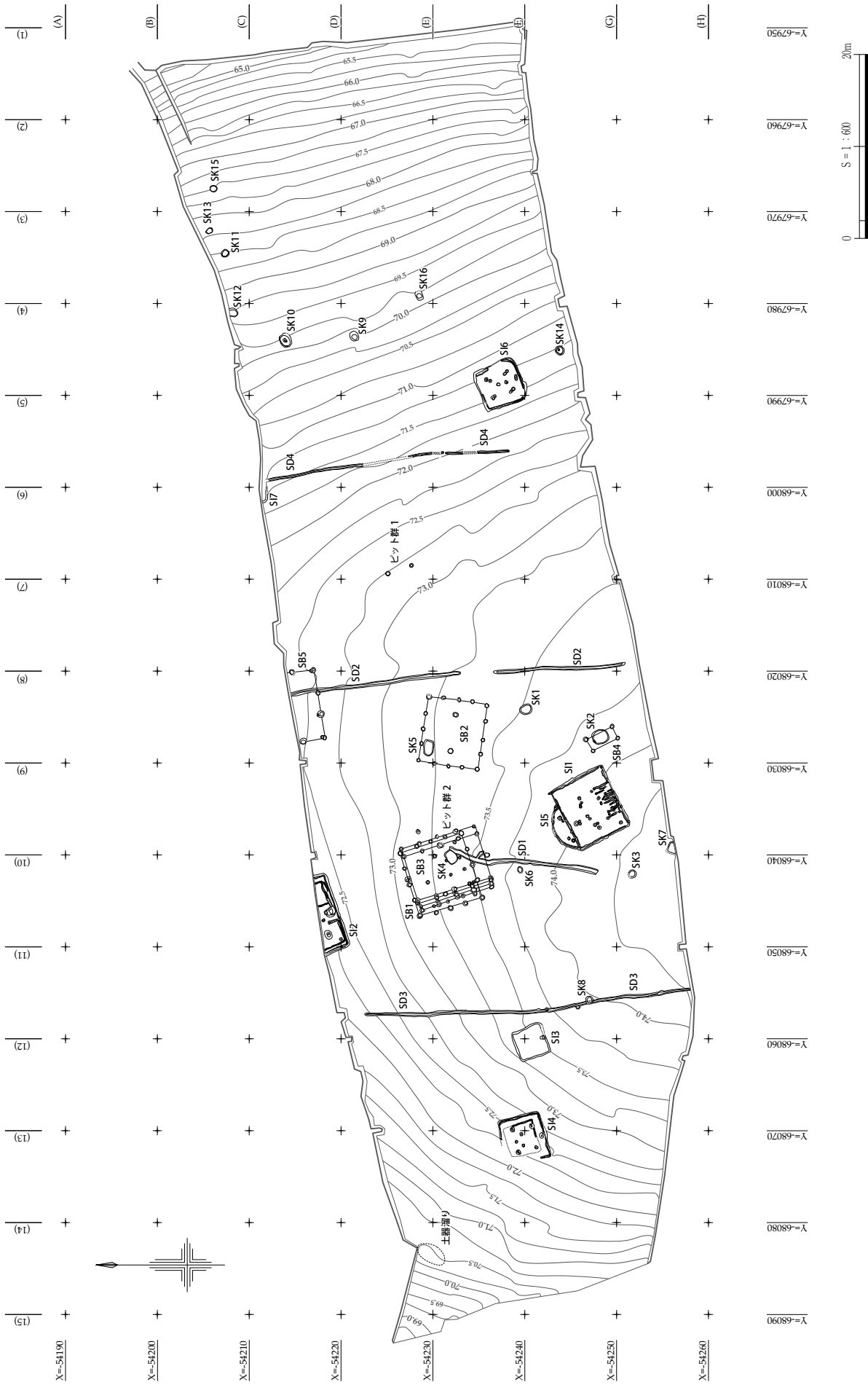
検出した遺構は、縄文時代の落とし穴8基、弥生時代の竪穴住居跡1棟、古墳時代の竪穴住居跡6棟、掘立柱建物跡5棟、土坑7基、溝1条、時期不明の土坑1基、溝3条であった。

遺物は、遺構内のほか包含層中から多量に出土した。遺構内からは、古墳時代の土師器と須恵器をはじめ、弥生時代後期の土器や、敲石・磨石・台石等の石器類が出土した。また包含層中からは縄文土器も出土している。包含層中での出土地点は、遺構の分布密度が高い丘陵頂部に集中し、西側斜面でも多く出土するが、東側斜面の遺構は落とし穴に限られることから遺物はほとんど出土していない。

なお、本報告書における遺構名および番号は、発掘調査時のものから一部変更していることから、以下に新旧の遺構名対照表を掲載しておく。

表13 新旧遺構名対照表

新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名
SI1	SI1	SB3	SB3	SK7	SI5	SD2	SD2
SI2	SI2		ピット列1(SA1)	SK8	SK8	SD3	SD3
SI3	SI3		ピット列2(SA2)	SK9	SK9	SD4	SD4
SI4	SI4	SB4	SB4	SK10	SK10	ピット群1	ピット群2
SI5	SI1	SB5	ピット群1	SK11	SK11	ピット群2	ピット群3
SI6	SI6	SK1	SK1	SK12	SK12	欠番	ピット群4
SI7	SI7	SK2	SK2	SK13	SK13	欠番	ピット群5
SB1	SB1	SK3	SK3	SK14	SK14	土器溜り	土器溜り
	ピット列3(SA3)	SK4	SK4	SK15	SK15		
SB2	SB2	SK5	SK5	SK16	SK16		
	ピット列4(SA4)	SK6	SK6	SD1	SD1		



第80図 遺構配置図

第3節 縄文時代の調査

1 概要(第81図)

縄文時代の遺構としては、調査区の東側斜面において落とし穴8基(SK9～16)を検出した。

これらの遺構は、いずれもⅢ層中で検出したが、埋土は黒色系または黒褐色系のクロボク由来の土であり、本来はⅡ層中から掘り込まれたものと推定する。

いずれの落とし穴からも遺物が出土していないため、確実な時期をおさえることができないが、Ⅱb層中からわずかながら縄文土器が出土したことに加えて、黒色系または黒褐色系の埋土の堆積状況や遺構の形態的特徴、後述する自然科学分析の結果などから、縄文時代と判断した。

2 落とし穴

SK9 (第82図、PL.82)

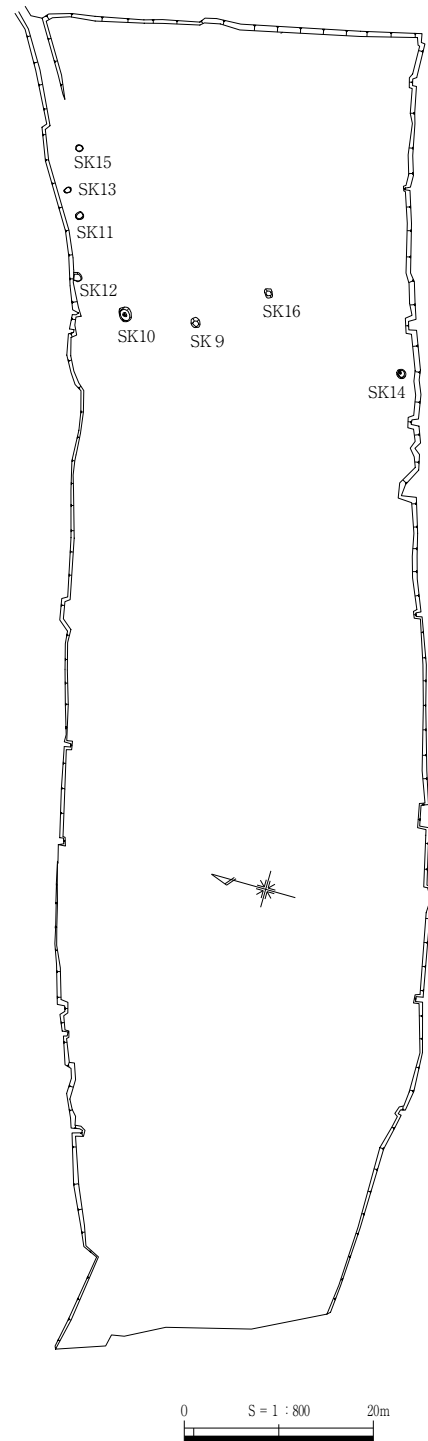
調査区の東側、D4グリッドの北寄り中央にあり、標高70m付近の丘陵斜面に位置する。Ⅱ層除去後のⅢ層中で検出した。北側約8mにはSK10がある。平成22年度に実施した確認調査におけるTr.14のSK2である。

平面形はほぼ円形を呈し、検出面での長軸は1.06m、短軸は0.92mを測る。断面形は不整な逆台形状を呈し、検出面から底面までの深さは最大1.5mである。底面形は不整な円形を呈し、長軸61cm、短軸52cmを測る。底面ピットは確認できなかった。

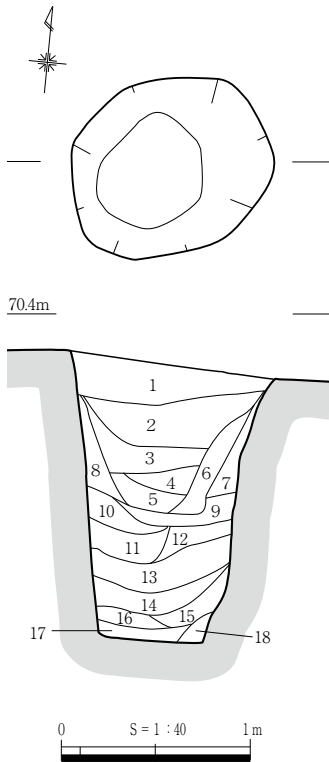
埋土は黒色土および黒褐色土を主体とする18層に分層できた。全体的に皿状に堆積する自然堆積であるが、6層以上は7～9層を二次的に掘り込んだ後、自然堆積したと考える。

時期を判断できる遺物は出土していないが、埋土17層から採取した土壌を水洗選別して得た炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代値 3670 ± 30 yrBP (IAAA-112678)の測定結果を得た。この値は縄文時代後期前葉頃の時期を示している。ただし、確認調査時点から半裁状態であったため、土壌に混入が含まれる可能性がある。

底面ピットがないという形態的特徴や埋土の状況は、古い時期の落とし穴の特徴を示しており、自然科学分析の結果と齟齬がみられる。遺構の時期は縄文時代の中で捉えておきたい。

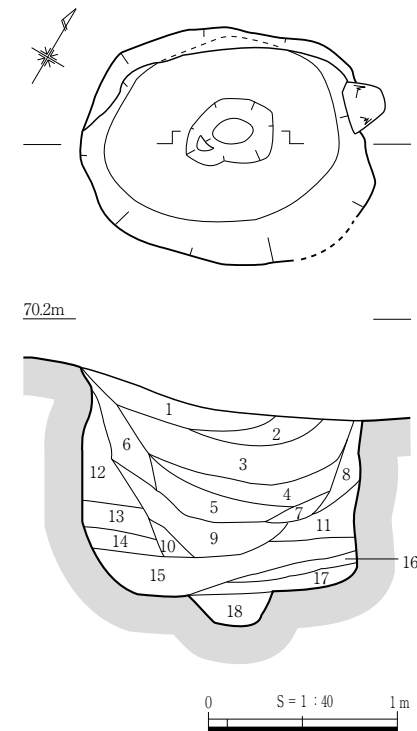


第81図 縄文時代の遺構分布



1. 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱、しまりやや強。細砂を僅かに含む
2. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまりやや強。細砂・地山ローム粒を僅かに含む
3. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや強、しまりやや弱。細砂を僅かに含む
4. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまりやや強。細砂を僅かに含む
5. 黒色土 (10YR2/1) 粘性・しまりやや弱。φ1mm程度の地山ローム粒を僅かに含む
6. 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ローム粒を少量含む
7. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまり弱。地山ローム粒を多く含む
8. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまり弱。地山ローム粒を多く含む。7層と同質
9. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまり弱。地山ローム粒を僅かに含む
10. 黒色土 (10YR2/1) 粘性・しまりやや弱。φ1mm以下の地山ローム粒を僅かに含む
11. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ローム粒を僅かに含む
12. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや強、しまり強。地山ローム粒・ロームブロックを僅かに含む
13. 黒褐色土 (10YR1.7/1) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ローム粒を多く含む
14. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を多く含む
15. 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ロームブロックを密に含む
16. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性・しまりやや弱。地山ロームブロックをやや密に含む
17. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや強、しまり強。クロボクと地山ソフトロームの混濁土
18. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ローム粒を多く含む

第82図 SK9



1. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや弱、しまりやや強。細砂・地山ローム粒を僅かに含む
2. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性・しまりやや強。地山ローム粒を多く含む
3. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ローム粒を僅かに含む
4. 黒色土 (10YR2/1) 粘性・しまりやや強。細砂を僅かに含む
5. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまり弱。細砂・地山ローム粒を僅かに含む
6. 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒を僅かに含む
7. 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや強、しまり強。地山ローム粒を僅かに含む
8. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒をやや密に含む
9. 黒色土 (10YR2/1) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を僅かに含む
10. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を多く含む
11. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまりやや強。地山ローム粒・ロームブロックをやや密に含む
12. 黒色土 (10YR1.7/1) 粘性・しまりやや強。地山ローム粒・ロームブロックをやや密に含む。11層とほぼ同質
13. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性強、しまりやや強。地山ロームブロックが縮状に入る
14. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性・しまりやや強。地山ロームブロックが縮状に入る
15. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強、しまり強。地山ローム粒をやや密に含む
16. 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ローム粒をやや密に含む
17. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまり強。地山ローム粒・ロームブロックを密に含む
18. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を多く含む

第83図 SK10

平面形はほぼ円形を呈し、検出面での長軸は85cm、短軸は79cmを測る。断面形は縦長の長方形状を呈し、検出面から底面までの深さは最大1.28mである。底面形は不整な方形を呈し、長軸70cm、短軸56cmを測る。底面ピットは確認できなかった。

埋土は黒色土および黒褐色土を主体とする19層に分層できた。15・18層は壁の崩落土とみられる。

SK10(第83図、PL.82)

調査区の東側、C4グリッドの中央付近にあり、標高70m付近の丘陵斜面に位置する。II層除去後のIII層中で検出した。北東側6.6mの位置にはSK12が、南側約8mの位置にはSK9がある。

平面形は隅丸長方形を呈し、検出面での長軸は1.51m、短軸は1.25mを測る。断面形は横長の長方形状を呈し、検出面から底面までの深さは最大1.12mである。底面形は楕円形を呈し、長軸1.23m、短軸0.97mを測る。底面のほぼ中央に、長軸45cm、短軸35cm、深さ17cmのピットが掘られている。

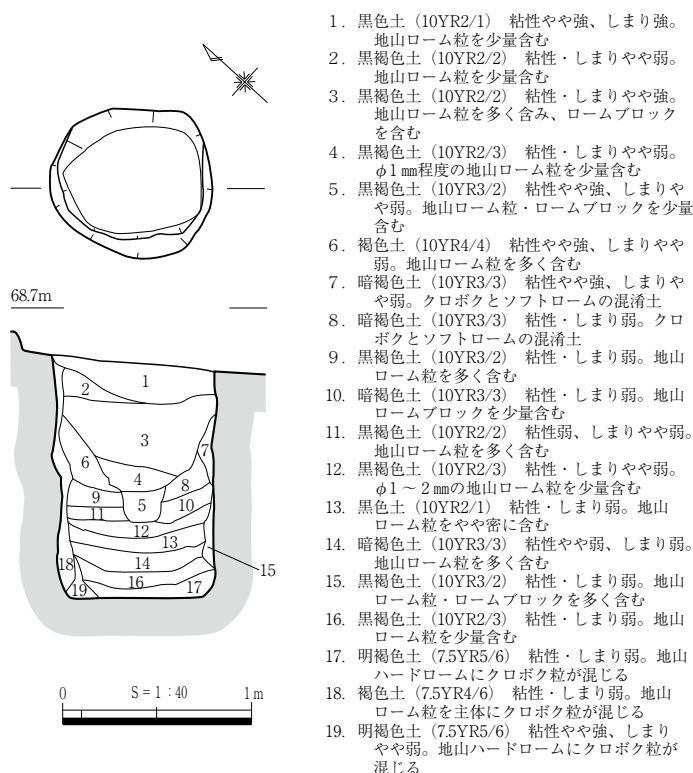
埋土は黒色土および黒褐色土を主体とする18層に分層できた。全体的に皿状に堆積する自然堆積であるが、10層

以上は11層以下を二次的に掘り込んだ後、自然堆積したと考える。

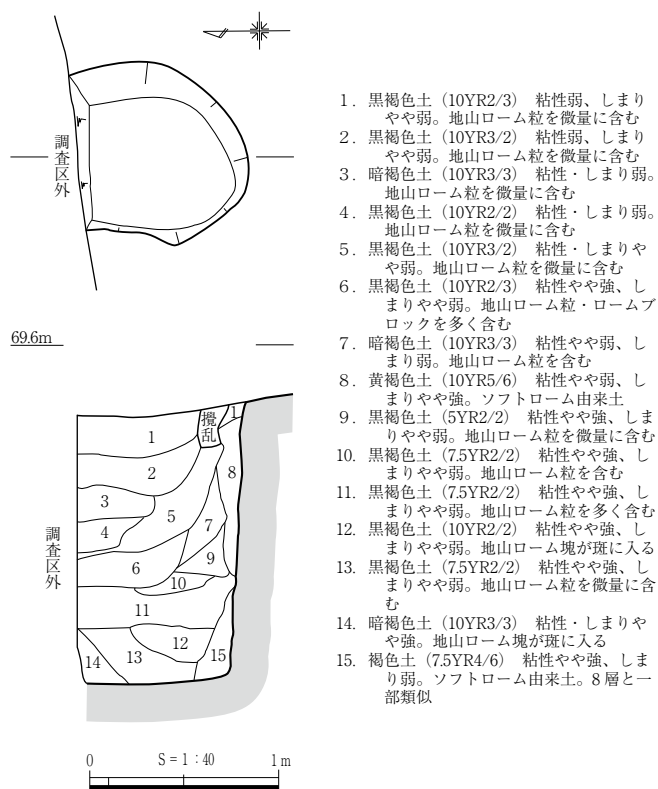
時期を判断できる遺物は出土していないが、埋土の状況や形態的特徴から、遺構の時期は縄文時代と考える。

SK11(第84図、PL.83)

調査区東側の北壁沿い、B3グリッドの中央よりやや南寄りであり、標高68.5m付近の丘陵斜面に位置する。II層除去後のIII層中で検出した。西側6.4mの位置にSK12が、北東側2.8mの位置にSK13がある。



第84図 SK11



第85図 SK12

30yrBP (IAAA-112679) の測定結果を得た。この値は縄文時代早期前半頃の時期を示している。

埋土の状況や形態的特徴、自然科学分析の結果から、遺構の時期は縄文時代早期前半頃と考える。

全体的に皿状に堆積する自然堆積であるが、5層以上は6層以下を二次的に掘り込んだ後、自然堆積したと考える。

時期を判断できる遺物は出土していないが、埋土17層から採取した土壌を水洗選別して得た炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代値8870 ± 30yrBP (IAAA-112680) の測定結果を得た。この値は縄文時代早期前半頃の時期を示している。

埋土の状況や形態的特徴、および自然科学分析の結果から、遺構の時期は縄文時代早期前半頃と考える。

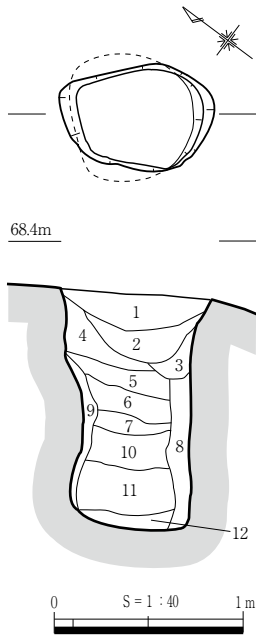
SK12(第85図、PL.83)

調査区東側の北壁際、B4グリッドの中央東寄りにあり、標高69.3m付近の丘陵斜面に位置する。II層除去後のIII層中で検出した。東側6.4mの位置にSK11が、南西側6.6mの位置にSK10がある。北側の一部は調査区外のため、未掘削である。

平面形はほぼ円形を呈し、検出面での長軸は90cm以上、短軸は92cmを測る。断面形は縦長の長方形状を呈し、検出面から底面までの深さは最大1.43mである。底面形は不整な円形を呈し、長軸76cm以上、短軸70cmを測る。底面ピットは確認できなかった。

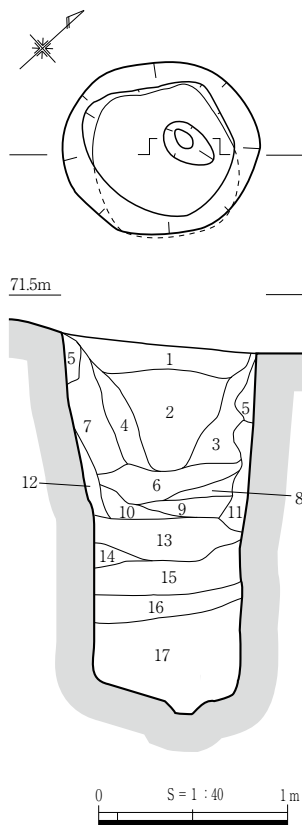
埋土は黒褐色土を主体とする15層に分層できた。8・15層は壁の崩落土である。全体に皿状に堆積しており自然堆積と考える。

時期を判断できる遺物は出土していないが、埋土14層から採取した土壌を水洗選別して得た炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代値8870 ±



1. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性・しまりやや弱。φ1mm程度の地山ローム粒を微量に含む
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性・しまりやや弱。φ5mm程度のローム粒を微量に含む
3. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を含む
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を多く含む
5. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を含む
6. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ローム粒を含む
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ローム粒を含む
8. 黄褐色土 (10YR5/6) 粘性やや強、しまりやや弱。ソフトローム由来土
9. 黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや強、しまりやや弱。ソフトローム土と黒褐色土の混淆土
10. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや弱。
11. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ローム粒を含む
12. 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ローム粒・炭化物を含む

第86図 SK13



1. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を微量に含む
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を多く含む
3. 黄褐色土 (10YR4/3) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒・ロームブロックを含む
4. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を微量に含む、ロームブロックを含む
5. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性やや強、しまり強。地山ロームブロックをやや密に含む
6. 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性弱、しまり強。クロボクとソフトローム由来土の混淆土
7. 4層と同質
8. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性・しまりやや強。地山ローム粒を微量に含む
9. 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性やや弱、しまりやや強。クロボクとソフトローム由来土の混淆土
10. 黄褐色土 (10YR5/4) 粘性・しまりやや弱。ソフトローム由来土
11. 黄褐色土 (10YR5/8) 粘性やや弱、しまり弱。ソフトローム由来土
12. 黄褐色土 (7.5YR7/3) 粘性・しまりやや弱。ハードローム由来土
13. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を微量に含む
14. 黄褐色土 (7.5YR7/3) 粘性・しまりやや弱。クロボクとハードローム由来土の混淆土
15. 褐色土 (7.5YR4/4) 粘性やや強、しまりやや弱。クロボクとハードローム由来土の混淆土
16. 褐色土 (7.5YR4/6) 粘性やや強、しまりやや弱。クロボクとハードローム由来土の混淆土
17. 黄褐色土 (10YR7/8) 粘性・しまりやや強。クロボクとハードローム由来土の混淆土

第87図 SK14

は逆台形状で、検出面から底面までの深さは最大1.87mを測る。底面形は不整円形を呈し、長軸が78cm、短軸が76cmを測る。底面の中央より東寄りに、長軸が30cm、短軸が19cm、深さが8cmの浅いピットを確認した。

埋土は黒褐色土と暗褐色土を主体とする17層に分けられる。このうち、5・11・12層は壁の崩落土であり、1～4・8～10層はそれより下層を二次的に掘り込んだ後、自然堆積したと考える。

SK13(第86図、PL.83)

調査区東側の北壁沿い、B3グリッドの中央より東寄りにあり、標高68.1m付近の丘陵斜面に位置する。Ⅱ層除去後のⅢ層中で検出した。南西側2.8mの位置にSK11が、東側4.6mの位置にSK15がある。

平面形は不整な楕円形を呈し、検出面での長軸は82cm、短軸は57cmを測る。断面形は縦長の長方形状を呈し、検出面から底面までの深さは最大1.25mである。底面形は不整な円形を呈し、長軸68cm、短軸65cmを測る。底面ピットは確認できなかった。

埋土は黒褐色土を主体とする12層に分層できた。8・9層は壁崩落土と埋土が混ざったものである。全体的に皿状に堆積する自然堆積であるが、1～3層は4層以下を二次的に掘り込んだ後に自然堆積したと考える。

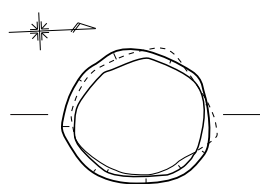
時期を判断できる遺物は出土していないが、埋土12層から採取した土壌を水洗選別して得た炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代値8880±40yrBP(IAAA-112681)の測定結果を得た。この値は縄文時代早期前半頃の時期を示している。

埋土の状況や形態的特徴、自然科学分析の結果から、遺構の時期は縄文時代早期前半頃と考える。

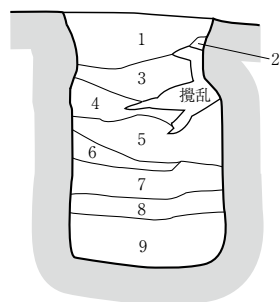
SK14(第87図、PL.84)

F4グリッドの中央やや北側にあり、標高71.2m～71.3mの丘陵斜面に位置する。Ⅱ層除去後のⅢ層中で検出した。北側4.8mの位置にSI6がある。

平面形は円形を呈し、検出面での長軸は1.04m、短軸は0.90mを測る。断面形



67.7m



第88図 SK15

1. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ローム粒を微量に含む
2. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや弱。地山ロームブロックを斑状に含む
3. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱、しまりやや強。地山ローム粒を微量に含む
4. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒を含む
5. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性やや弱、しまり弱。地山ロームブロック・ローム粒を多く含む
6. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒、礫を微量に含む
7. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまり弱。地山ローム粒を微量に含む
8. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒を微量に含む
9. 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を含む

時期を判断できる遺物は出土していないが、埋土の状況や形態の特徴などから、遺構の時期は縄文時代と考える。

SK15(第88図、PL.84)

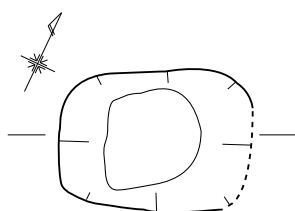
B2グリッドの中央よりやや西側にあり、標高67.5m付近の丘陵斜面に位置する。II層除去後のIII層中で検出した。西側4.6mの位置にはSK13がある。

平面形は円形を呈し、検出面での規模は、長軸が77cm、短軸が70cmを測る。断面形は縦長の長方形形状で、検出面からの深さは1.34mである。底面形は不整な方形を呈し、規模は長軸が69cm、短軸が63cmを測る。底面ピットは確認していない。

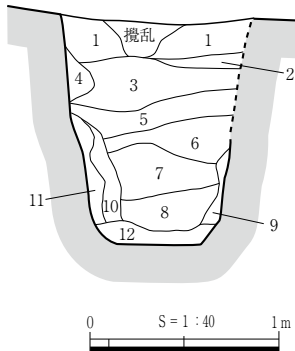
埋土は黒褐色土を主体とする9層に分層できた。水平および皿状に堆積することから、自然堆積と考える。

時期を判断できる遺物は確認していないが、埋土9層から採取した土壌を水洗選別して得た炭化物について放射性炭素年代測定を行ったところ、補正年代値 $8870 \pm 40\text{yrBP}$ (IAAA-112682)の測定結果を得た。この値は縄文時代早期前半頃の時期を示している。

埋土の状況や形態の特徴、自然科学分析の結果から、遺構の時期は縄文時代早期前半頃と考える。



70.0m



第89図 SK16

1. 黒色土 (10YR2/1) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を微量に含む
2. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を多く含む
3. 黒色土 (10YR2/1) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒を微量に含む
4. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒・ロームブロックを多く含む
5. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を微量に含む
6. 黒褐色土 (10YR2/2) 粘性・しまりやや弱。地山ローム粒を微量に含む
7. 黒褐色土 (7.5YR2/2) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒を微量に含む
8. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ロームブロックを含む
9. 黒褐色土 (10YR3/1) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ローム粒を含む
10. 黒褐色土 (10YR2/3) 粘性やや弱、しまり弱。地山ローム粒を多く含む
11. にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 粘性やや強、しまりやや弱。地山ロームブロックを主体とする壁崩落土
12. 黒褐色土 (10YR3/2) 粘性・しまりやや強。黒色土と地山ローム由来土の混淆土

SK16(第89図、PL.84)

D3グリッドの南西隅にあり、標高69.8m付近の丘陵斜面に位置する。II層除去後のIII層中で検出した。北西側8.4mの位置にはSK9がある。遺構の東側上部付近は木の株によって壊されていた。

平面形は長方形を呈し、検出面での規模は、長軸が1.00m、短軸が0.75mを測る。断面形は逆台形状を呈し、検出面から底面までの深さは1.18mを測る。底面形は不整円形を呈し、長軸は62cm、短軸は50cmを測る。底面ピットはみられない。

埋土は黒褐色土を主体とする12層に分層できた。自然堆積であり、後世の植林による木の根が多く混じっていた。11層は壁の崩落土である。

時期を判断できる遺物は出土していないが、埋土の状況や形態の特徴から縄文時代と考える。